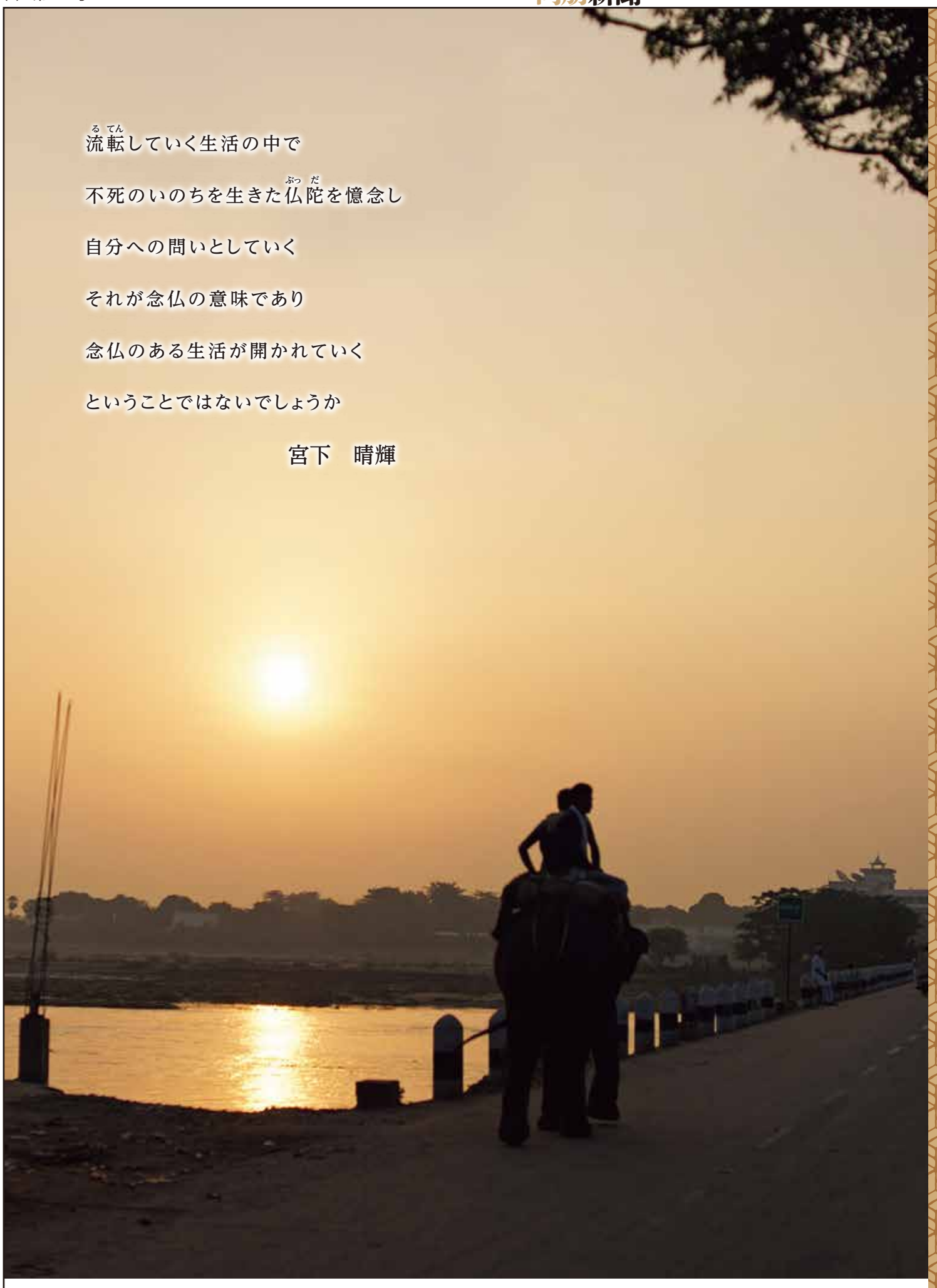


流転（るてん）していく生活の中で

不死のいのちを生きた仏陀（ぶっだ）を憶念し

自分への問いとしていく

それが念仏の意味であり

念仏のある生活が開かれていく

ということではないでしょうか

宮下　晴輝

同朋新聞

どうぼうしんぶん

Dōbō Shimbun

10

Vol. 779　October 2022

Shinran 750th 800th

〈慶讃（きょうさん）テーマ〉

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

慶讃特設サイト　検索

今月の写真

インド・ブッダガヤ、象に乗って川を渡る男性。
人間であるがゆえに老病死する体をもって生きるいのちを苦しみとして経験する私たち。
出家、「プラブラジヤ」とは歩み出す、一歩前進するという意味がある。
お釈迦様は何を信頼してはじめの一歩をふみだされたのだろうか。（2・3面参照）

CONTENTS

2・3面

人間といういのちの相

ここに真あり

宮下 晴輝さん

6・7面

特集

真宗本廟奉仕に参加しませんか？

お寺で過ごそう、お寺で語ろう

10・11面

阿弥陀堂門修復工事すすむ

長浜・京都教区が教区改編の合意

ほか

4面

現在を生きる

御同朋・御同行からの問いかけ

～是旃陀羅の課題～　第11回

5面

親鸞聖人にであう　第3回

8面

聞　今月の法話　第25回

9面

慶讃NEWS ニュース

発行所
真宗大谷派宗務所
代表者　木越　渉
編集／東本願寺出版（真宗大谷派宗務所出版部）
〒600-8505　京都市下京区烏丸通七条上る
TEL.075-371-9189（東本願寺出版）

購読料 無料
送　料 1部1カ年1,300円（部数により変動）
振替口座番号　01000-6-27404
加入者名　東本願寺出版部

真宗門徒として帰敬式（おかみそり）を受けましょう

ここに真あり

インタビュー● 宮下 晴輝さん

宗門は、明年、宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要をお迎えします。また、本年は同朋会運動60年の節目の年でもあります（『同朋新聞』7月号に掲載）。この時にあって、木越渉宗務総長は「真宗再興」が、宗門に身を置く私たちの使命であると呼びかけられました。また、「宗祖に還れ」から、宗祖の声に導かれ「釈尊以前に還る」ことが、真宗再興の精神を今日に受けとめる根本だと表現されています。これらの呼びかけに込められている願いとは。教学研究所長の宮下晴輝さんのお話を通して、人間の相を考えます。

1949（昭和24）年石川県生まれ。金沢大学法文学部卒業。大谷専修学院卒業。大谷大学大学院文学研究科仏教学専攻博士後期課程満期退学。大谷大学名誉教授。真宗大谷派擬講。専門は仏教学（古代インドの仏教思想研究）。著書に『真宗新書 はじめての仏教学―ゴータマが仏陀になった一よ』、『摂大乗論第十章彼果智分の考究』（東本願寺出版）、編著『仏教とキリスト教の対話Ⅱ 浄土真宗と福音主義の信仰』（法藏館）。

この紙面では、さまざまな人を通して、
現代社会の抱える課題や
人間そのものについて考え、

宗祖御遠忌テーマ
「今、いのちがあなたを生きている」、

慶讃テーマ
「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」

の学びを深めていきたいと思います。

親鸞聖人が出遇った仏陀

――私たちが親しんでいる「正信偈」に「如来所以興出世 唯説弥陀本願海」とあります。ここに出てくる「如来」は阿弥陀様ではなくてお釈迦様を指しますが、「正信偈」をお勤めする中で、釈迦如来だとはなかなか思い至らない場合もあります。親鸞聖人は、お釈迦様をどのようにいただいておられたのでしょうか。

「正信偈」のこの句には、お釈迦様がこの世に出てくださったのは、阿弥陀如来の本願についてお説きになるためであるということがうたわれています。釈尊という如来と、阿弥陀という如来がどういう関係なのか、親鸞聖人はどのようにいただいておられたのかを考えることは大事なことだと思います。

私は、親鸞聖人はお釈迦様にお遇いになったのだと思います。親鸞聖人は、お釈迦様の本当のこころを受けとられた。それは、私の前にお立になっている本当のこころは、阿弥陀仏の本願をお説きになるためであったと了解しておられるのです。

親鸞聖人が遇われた仏陀、あるいは如来、それは、応化身（衆生を救うためにこの世に応じて現れた仏の身）の仏陀という言葉でも表現できます。諸仏はもろもろの仏陀という意味ですが、親鸞聖人の生活の中では、師である法然上人と言ってもいいと思います。親鸞聖人は、法然上人を通して、仏陀が仏陀たらしめられている阿弥陀仏と本願に出遇ったのです。その出遇いをもたらした法然上人を仰いでいるのです。本願、如来との出遇いを仰いでいるといってもいいのでしょう。仏教を教えてくださる法然上人の背景に阿弥陀仏の本願、南無阿弥陀仏を見られたのだと思います。私たちが直接的に出遇うのは、諸仏・善知識です。先生に出遇うと言ってもいいと思います。その出遇いを成り立たせているものは先生の背景にある阿弥陀仏と阿弥陀仏の本願ではないでしょうか。

ですから、阿弥陀仏とわれわれの間に何かが介在しているのではないのです。実際に出遇っている先生との出遇いを成り立たせているものは何であるのか。先生を先生として、仏陀を仏陀たらしめているのはいったい何なのか。私たちはいったい何に出遇っているのかということが、一番の根本問題だと思います。

生死するいのち

――お釈迦様は生老病死を問題にして出家されたわけですが、それは現代を生きる私たちにとって、どんな課題となるのでしょうか。

お釈迦様の生涯を伝える「四門出遊」の物語があります。これは後代になって作られた物語ですが、何百年と語られる中で深められてきたものです。老病死に出あい、憂いを抱えたお釈迦様が、一人の出家者に出あい、出家するという物語です。その中には、お釈迦様が三つの門から城を出て、老、病、死に出あい、城に引き返してきた後、すぐに出家していく心を起こすことができない様子が描かれています。苦しみやむなしさはわかっていても、自分の近くにある快楽を求めざるを得ない人間の姿です。しかし、四番目の門を出たところで一人の出家者に出あって出家していくのです。わかりやすい物語になっていますが、実際には出家者に出あったからといっても、不安と疑いの中にいる人間に、仏道を歩みたいという心が果たして起こるでしょうか。それは一体どういうことなのか、よほど考えてみないといけないと思います。

仏伝の中で最後に編集されたと考えられている『仏本行集経』という大きな仏伝があります。その仏伝では、お釈迦様が出家者と出あった瞬間を「ここに真あり」と、心に大きな喜びが生じた様子が表現されています。私たちはそれをどう読んだらいいのでしょう。

人間は、何かを信頼し、安心して生きています。しかし、お釈迦様は老病死を通して、人間は一人死にゆくものであるという苦しみに出あった。そして、一体何のために生きるのかわからないという、生きる意味を疑う苦しみにも出あった。信頼できる家庭や仕事を生きる喜びとしてきたのに、それらも確かな支えではない。諸行無常であることを知ったのです。では、そこで一切を諦めて、手近にあるものを喜びだと決めて人生を送るのでしょうか。そこでは信頼は崩れて、疑いしかありません。そういう人間の中に、信頼できるものが回復されない限り、歩み出すということはあり得ないと思います。

私は、お釈迦様は「何で苦しむのだろうか、何で疑うのだろうか」というところに戻ったのだろうと思います。

それは、真実を求めるから苦しみ、疑っているのです。何も信じられない↖

連載 人間といういのちの相（すがた）

というのは、真実を求めているということの証拠なのです。疑ったり、苦しんだりする形で真実を求めていることに気づかれたのです。

唯一自分にあるものは真実を求めている心である。それが「ここに真あり」という言葉にあらわれているのではないでしょうか。そして出家した人を見れば、ああ、この人もきっとそういう心で動き出したのだろうと、そこに初めて別の意味の信頼が生まれてくる。そしてお釈迦様は沙門たちの中に入っていかれたのです。出家、「プラブラジヤ」は「歩み出す、一歩前進する」という意味です。真実を求める心を自己の心としてお釈迦様は歩みだされたのです。

――真実を求めながら、迷いを深める人間にお釈迦様、親鸞聖人は、どのような教えを示してくださっているのでしょうか。

お釈迦様は、老病死する身体をもっていのちを生きていると押さえられ、そのうえで人間であるということはどういうことなのかをたずねておられます。このことは、仏教においていのちを見ていく時の原点ではないでしょうか。

親鸞聖人も一人の仏教徒として、生死するいのちという形で、いのちの姿を見ておられます。私たちは人間であるが故に、老病死する身体をもっていのちを生きる、あるいは生死するいのちを苦しみとして経験します。これが人間であるということの一つの大きな意味だと言えるのではないでしょうか。

いのちには身体として形があるいのちと、無量寿という形なきいのちがあります。『法句経』（ダンマパダ）という経典に、「不死の境地を見ないで百年生きるよりも、不死を見て一日生きることの方がすぐれている」というお釈迦様の言葉があります。

不死を知らずに生きるいのちと、不死を知って生きるいのち。お釈迦様はどのようにいのちを生きるのかということの違いを教えておられます。時間の長さではなく、たった一日でもいいから無量寿に触れることができれば本当に生きたと言える。一方で、不死を知らずに生きるということは、生死流転していく私たちのいのちのあり方だと思います。

私たちは人間として生まれ、老病死する身体をもっていのちを生き、必ず死んでいきます。死がある中において、不死のいのちを生きるものになるということを仏教は説いています。そんなことがなぜあり得るのか。不思議なことをお釈迦様は説かれるものだと思います。流転の生しか知らない私たちの生き方に対して「不死の境地を見て一日を生きる方がすぐれている」という言い方をされるわけですから、驚きです。しかし、「何だ、不死のいのちなんてわからないじゃないか」と言わないで、「そういう世界や意味もあるのかもしれない」とじっと抱えておく。流転していく私たちの生活の中でそのことをゆっくり受けとめ、不死のいのちを生きた仏陀を憶念し、自分への問いとしていく。それが親鸞聖人が歩まれた念仏の意味であり、念仏のある生活が開かれていくということではないでしょうか。

慶讃法要の課題

――老病死ということを、何か自分の中でうまく処理するような意味で捉えていましたが、まったく違う深さを持って、お釈迦様は歩み出されたことを私たちが教えていただきました。そのことを聞いていく姿勢の中に、しっかり確認していかなければならないと思いました。

そうですね。自分のこととして考え、自分の問いというものをはっきりさせることはとても大切だと思います。老病死、そして寂しさや孤独を頭で理解するだけではなく、自分自身がどう感じるか。そして、お釈迦様はなぜそこを越えて歩みだすことができたのかを考える。老病死の苦しみは誰もが抱える問題ですから、「こうすれば幸せになれる」という言葉に引かれて自分の外側にあるものが真実だと決めてしまうと、外側の真実に引きずられ、支配されてしまいます。宗教に対して、本当に自分が納得したものに対してしか動かない人間を育てる場、何かを自分が問題にして、それを納得するという経験をする時が求められていると思います。宗教を、自分のこととして考え、自分の問いというものがはっきりした中で考えていくという訓練をする場がお寺ではないでしょうか。

――新型コロナの収束がなかなか見えない状況です。さらに、ロシア連邦によるウクライナ侵攻などの問題を抱えて私たちは生きています。その中で何を課題とし、慶讃法要をどのようにお迎えすればいいでしょうか。

私たちは、個人の力では何ともならないような天災、戦争、疫病がある真っただ中にいます。『仏説観無量寿経』では「八十億劫の生死の罪」と、人間のもっている罪を無限の時間の感覚で表現されていますし、「五逆十悪具諸不善」とさまざまな因縁の中で悪を犯してしか生きられない人間存在の姿を表されています。悪の原因を他に求めるのではなく、人間が流転してきた中で起こる生死の罪の中にいる、その形がパンデミックであり戦争なのではないでしょうか。

来年お迎えする慶讃法要という仏事は、それらと無関係ではないでしょう。だから特別なことをするという法要ではないように思います。法要をどのようにお迎えするのかという点から見れば、曽我量深先生は、宗祖親鸞聖人七百回御遠忌をお迎えする10年以上も前の年から、法要をお迎えするからには釈尊に還らなければならない、そこに仏教の課題を見ながら御遠忌をお迎えするのだと待ち受けておられます。

現在のさまざまな状況から、これまであった問題をしっかり問題にしないできたことが、あらためてクローズアップされたのではないでしょうか。

コロナ感染の中では、人を排除したり、差別したりすることが起こりました。また、感染自体よりも地域の中で最初の感染者になることの方を恐れるという、人間が世間と私という関係を生きているという問題がクローズアップされたということもあると思います。世界的なことを言うと、天災や疫病や戦争を何とか止めたいと多くの人が願うわけですけれども、人間がつくる国家というものは、戦争さえ利用して覇権を握ろうとします。国家の持つあくなき覇権主義という業。見えてきた事実をきちんと自分のこととして教えにたずねていくということしかないのではないかと思っています。悲しいことが絶えず起こっていますが、念仏するということは、諦めるなと言っているのではないかと思います。（了）

通信員リレーリポート Vol.229

日本全国のご門徒の方々や各地で開かれている同朋の会を紹介します。

母との死別からの出発

沖縄別院門徒
仲大底 学さん（38歳）

沖縄別院の鐘楼にて

今回は、沖縄県宜野湾市にある沖縄別院で聞法に励まれている青年をご紹介する。

石垣島の出身でおしゃれ好きの仲大底学さん。地元の高校卒業後、当時流行だったカリスマ美容師に憧れ、那覇の美容専門学校に進学。その後20歳から東京へ出て、夢だった美容室で働きはじめる。

希望に満ちた未来を思い描いていたが、現実は数多くの技術の習得が必須で、店の営業後、夜遅くまで練習し、何度も試験を受けて美容師修業に励んだ。その成果もあって、ヘアカットまで任せられるように。東京での生活が14年を過ぎようとしていた。

そんな時、「母親に大病が見つかった」との報せが飛び込む。仲大底さんはすぐに沖縄へ帰ることを決心した。

献身的に母の看病をされるも、2019年の春、母はその命を終えられた。通夜、葬儀、中陰は沖縄別院が執り行った。

現在を生きる

勉強会の様子（右側手前が仲大底さん）

その後、悲しみの日々を送る仲大底さんに別院から「青年層を対象とした仏教勉強会を開くのですが、参加しませんか？」と声がかかったことが仏教との縁となった。

「これまでの人生のもどかしさや母親の死を通じて、仏教に対して興味がわいていたこともあって、学べるチャンスだと思いました」と当時を振り返る。

それからずっと参加している月1回開催の「青年勉強会」では、建築業や経営コンサルタントなど、さまざまな職種のメンバーが集う。テキストを輪読してから、それぞれのいただき方を語り合っている。仲間との語り合いを通して、自分では思いもよらなかった言葉との出あいに刺激を受けているそうだ。

母の死から3年が経ち、仲大底さんは、「いのちの大切さ、今この身が在るありがたさをあらためて感じています。母は亡くなってしまったけれど、生きている時だけでなく、亡くなってもなお教えてくれることがあるのですね」と語る。

仲大底さんの姿勢に、共に聞法の道を歩んでいくことの大切さをあらためて感じさせられた。

沖縄開教本部

御同朋御同行からの問いかけ
～是旃陀羅の課題～
第11回

宗門が問われている『仏説観無量寿経』における「是旃陀羅」の語について、様々な視点からこの問題を考えていかなければなりません。このコーナーでは、これまでの歴史を振り返りながら、宗門に属するすべての人々が課題を共有できるよう情報を発信していきます。

今、問われていること（3）
心に痛みを感じる

現在、仏事の場で『仏説観無量寿経』（以下『観経』）が読誦される際、「是旃陀羅」の語が読まれることに対する痛みの声があがっています。『観経』において「旃陀羅」は貶められ、差別されており、そのことを否定する直接的な文脈がない中で、この語を聞くことは耐えられないとの問いかけです。

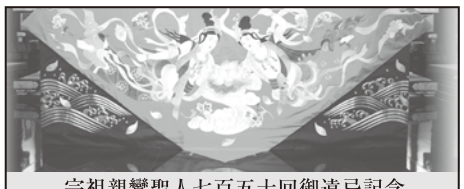
宗門は、全国水平社が創立して以来、『観経』の「是旃陀羅」の差別性について指摘され、また「旃陀羅」を被差別部落の人びとにたとえて教化の現場で語り、部落差別を助長・正当化してきたことを問われてきました。同じ真宗門徒からの「是旃陀羅」の教説部分は、被差別者にとってはやりきれないほど、心に痛みを感じる」（小森龍邦『親鸞思想に魅せられて』）という訴えは、その歴史のうえに、今あらためて提起されているものです。

この言葉は、インドにおける「旃陀羅」差別の深刻さとともに、宗門が「是旃陀羅」の語をもって被差別部落の人びとを差別し、部落差別に宗教的な根拠を与えてきたことへの悲しみの叫びに他なりません。そこには経典を、自らの差別性を聞き開いていくような「教え」としてではなく、安易に権威あるものとして位置づけてきた私たちの問題があります。そして、実際に差別に苦しむ人びとから問われていても、この課題に無関心であり続け、正面から向き合ってこなかったことが、ついに「痛い」という表現にまでさせているのです。

「センダラ」と読まれる「音」が刃となって、聞く人に痛みを与え、差別被害を生じさせているということ。具体的な行為として、仏事の場が差別を再生産しているとの声を知らされた時、今後どのような一歩を進めていくのか。その問いは、私たち一人ひとりに投げかけられているのです。

この記事に関するお問い合わせ
解放運動推進本部
☎075-371-9247
✉kaiho@higashihonganji.or.jp

BOOK
全国の書店で
東本願寺出版の書籍を
お買い求めいただけます！
在庫がない場合は、書店からお取り寄せいただけますので、書店員さんにお尋ねください。
書籍の詳細情報・試し読みはコチラ


宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念
紅地天人之図総手刺繍御打敷謹納
〒600-8159 京都市下京区烏丸通東本願寺前
TEL フリーダイヤル 0120-07-6391
FAX フリーダイヤル 0120-34-2816
https://shibata-houiten.com/
（Webカタログ掲載・商品動画配信中）
@SHIBATAHOUITEN
真宗大谷派 東本願寺御用達 京法衣事業協同組合加盟店
株式会社 柴田法衣店

丸西宗教織物
丸西「おかげさま」
夏・冬用のクリーニング割引セール
★特典！全国どこでも無料発送（3領以上）
抗ウィルス除菌・消臭・抗菌加工して
お届けします！
FAX 0120-051-881
TEL 0120-075-024
丸西宗教織物株式会社
京都市下京区堀川通正面上ル東側

クリーニング料金表

品名（税込）		化繊（税込）		正絹（税込）
間衣		3,800円～		5,800円～
直綴		4,800円～		7,800円～
裳附		4,800円～		7,800円～
袴		4,500円～		5,800円～
五条袈裟		3,300円～		3,800円～
七条袈裟				8,800円～
和装品	小紋	2,000円～		3,200円～
	訪問着	3,000円～		4,000円～
	色留袖			4,500円～
	留袖		比翼付	5,500円～
	振袖			5,500円～

第3回

「山」
―比叡山での学び―

9歳で出家した親鸞聖人は、伝教大師最澄（767～822）が開かれた天台宗のご本山、比叡山延暦寺にて、仏道修養の生活に入られます。山での生活は「論湿寒貧」（下段参照）の言葉で表されるように、厳しい修行三昧の日々でした。しかし、その様子については、聖人の妻恵信尼が、娘の覚信尼に宛てたお手紙の中に、常行三昧堂にて堂僧として過ごされたことや、29歳で下山されたことなどが伝わるぐらいです。

最澄は、すべての人が仏に成れると説く『法華経』の教えに基づく学場として延暦寺を開かれました。その規範ともいうべき『山家学生式』に、「国宝とは財宝などのことではなく、本当に生きる道を求めて歩む心を持つ人のことである」と述べられています。そして、そのような人物を育て世に送り出し、社会の片隅で悩みを抱えながら生きる人々の心に明かりを灯し、つながりを持って生きることを大切にされました。そのことで、平和で明るい社会の実現と人々の幸福を願われたのです。

聖人も、そのような「本当に生きる人と成る」願いを胸に、ひたむきに仏道に学んでいかれました。

親鸞聖人に であう

浄土真宗をあきらかにされた親鸞聖人。大谷中・高等学校［京都］で生徒とともに学ばれている乾さんと、**中高生の素直（リアル）な問い**を手がかりに、「人と生まれたことの意味」を親鸞聖人のご生涯に学んでいきます。

乾 文雄
京都教区近江第5組
正念寺住職
大谷中学・高等学校講師

ある日の高校3年生の授業です。

「親鸞さんの比叡山時代のキーワードは3つ。これ大事！」

「先生、それテストに出ますか？」

「う～ん…　出ると言えば聞いてくれるなら出ると言っておこう。でもな、漢字で書けとか意味を答えなさいじゃ面白くない。この言葉から何を学んだか、どんな自分が見えてきたかを書いてもらうから」

「ええ～っ!?」

宗教の授業は宗教を学ぶ時間ではなく宗教に学ぶ時間です。「宗教に自分を学ぶ」時間なのです。

キーワードの1つ目は『論湿寒貧』。これは厳しい修行・修学（論）が、夏の蒸し暑さ（湿）と冬の凍てつく寒さ（寒）の中、質素な生活（貧）のもとに行われた修行生活の厳しさを表します。2つ目は『忘己利他』。私欲を離れて人の悦びに尽くすという、いわば目指すべき人間像。3つ目は『断惑証理』。これは、ほんとうに厳しい道ですね。

「惑は煩悩のことやな。煩悩って何やったっけ?」

「苦しみの種の事です」

「すばらしい。もう少し言うと、煩悩は自分を悩ませたり迷わせたりする心のはたらきのことやったな。その中でも〝どぎつい〟のが?」

「それ知ってる。トンジンチ！」

煩悩の話は、自分と関係があると感じるのか、みんな一生懸命聞いてくれます。あれも欲しい、これも欲しいが止まらない貪欲。気に入らないと腹が立ってしょうがない瞋恚。最後が真理に暗い愚痴。「痴」という字は私たちが知っている、わかっていると思い込んでいることが「我執」の病にかかっている知識でしかないことを表しています。つまり、自分の都合でしか物事を了解できないのが私たちの本性です。これらをあわせて「三毒の煩悩」、貪瞋痴と言われます。

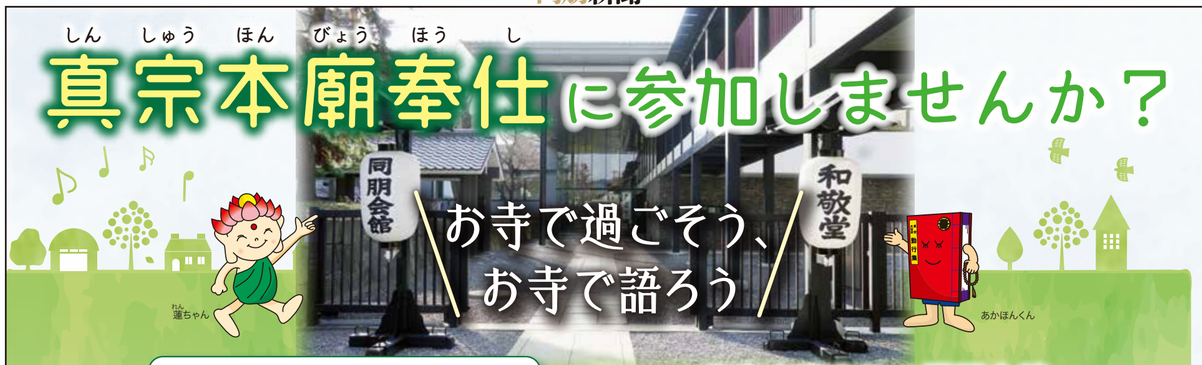
「ここで緊急アンケートの実施！　自分の中に一番濃く存在する煩悩はどれ？　どれか一つに手を挙げてね」

「結果発表です。貪欲25対瞋恚10対愚痴5でした。このクラスは半分以上が欲深く、4人に1人が怒りっぽく、ただの勘違い野郎だと自覚している人が5人という結果でした（大笑い）」

「ところでな、愚痴を自覚している人が少ないというのは実は大問題なのよ。つまり、私は大丈夫、きちんとわかっていると思っている人が多いということ。それを仏教では無明というんやけど、それはまた次回」

真理に近づくには煩悩を断つ道しかない。しかし、修行をすればするほどに、煩悩まみれの自分が浮き彫りとなる。その現実にめげることなく、覚りを得るべく修行をお続けになる聖人。煩悩を断つことなく、あるがままに救われていく「本願念仏」の道に出遇うのは、まだまだ先のようです。

真宗本廟奉仕に参加しませんか？



鸞恩くん

真宗本廟（東本願寺）境内にある「同朋会館」は、全国から集う方々が寝食を共にし、親鸞聖人の教えを聞き、真宗門徒の生活を習う聞法の道場です。

真宗本廟奉仕に参加して、自分自身を見つめ直してみませんか？

新しい自分と出会えるかもしれません。

真宗本廟奉仕と同朋会館

戦後、手入れが行き届かず荒廃していた東本願寺のために、全国のご門徒が、お米や味噌、野菜などを携えて寄り合い、泊まり込みで境内の清掃奉仕を行いながら、お念仏の教えを聞き、語り合いました。今とは違い、食堂もお風呂もない「和敬堂」という建物での生活でした。

1959（昭和34）年、宿泊・聞法の施設として竣工した同朋会館は、誕生から60年近くを経て、真宗本廟奉仕施設（同朋会館・研修道場・和敬堂）の改修・新築工事に伴い、2018（平成30）年7月にリニューアルいたしました。

真宗本廟奉仕での過ごし方

結成式・解散式
日程の最初と最後に、皆で集まって「正信偈」をお勤めします。

座談（語り合い）
講義（おはなし）の内容や、日ごろ感じていることを語り合います。奉仕団では、特に大切にしている時間です。

食　事
入館している団体全員で一緒にいただきます。簡単な準備や後片付けは食事当番が行います。
※感染症予防対策のため、一方向の席にしています。

清掃奉仕
阿弥陀堂・御影堂の縁や畳のふき掃除をはじめ、境内・渉成園等の草取りや落ち葉掃きを行います。

お内仏のお給仕
お内仏（仏壇）のお給仕をはじめ、私たちにとって「ご本尊」はなぜ大切なのかということを確かめます。

講義（おはなし）
講義（おはなし）を聞き、日々の生活を問い返します。

諸殿拝観
通常は非公開の諸殿を見学し、建築物の歴史的背景から東本願寺の歴史を学びます。

帰敬式（おかみそり）
日程中、仏弟子としての歩みを始める誓いの式である帰敬式（おかみそり）を受式することができます。

#真宗本廟奉仕に参加しました

いつも学校にいるときは一日がとても長く感じるけど、京都の生活はとても短く感じました。

毎日の生活から離れ、聞法の場に身をおくことは大切なことだと思います。

日ごろ感じたり考えたりしていなかったことに気づかされ、考えさせられました。非常に貴重な体験ができ、感謝いたします。

真宗本廟奉仕をより具体的に紹介した動画「真宗本廟奉仕に行こう」も、ぜひご視聴ください。
YouTube 真宗大谷派東本願寺　検索

子どもたちの真宗本廟奉仕！ 通年

真宗本廟（東本願寺）での思い出づくりをテーマに、子どもたちが東本願寺で思いっきり遊ぶ奉仕団です。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年以降、子ども奉仕団を休止しています。感染症の感染収束が見通せるまでの間、日曜学校や寺院の子ども会など少人数による「子どもたちの真宗本廟奉仕！」を実施しています。

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年

募集中！「慶讃法要奉仕団」「讃仰奉仕団」「真宗本廟奉仕 体験奉仕団」

2023年に厳修される「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」の期間に募集している奉仕団です。
寺院や5人以上のグループで慶讃法要にお遇いする大切な時をお迎えしませんか。

2023年3月25日～4月29日
ご予約は研修部までお電話ください。

慶讃法要奉仕団　2泊3日

ゆっくり安心して慶讃法要にお遇いします
法要参拝（2日目は参拝席指定）を日程の中心とし、その他、各所での催事（慶讃テーマ館、門前ひろば）の観覧、清掃奉仕を行います。
※3日間すべて、法要参拝を中心とした日程にすることも可能です。清掃奉仕などの基本日程を踏まえつつ、各奉仕団ごとに日程をつくりあげて行います。

パンフレットはコチラ

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

慶讃法要奉仕団（2泊3日）
【第1期法要】
3月25日（土）～27日（月）
3月28日（火）～30日（木）
4月 1日（土）～ 3日（月）
4月 6日（木）～ 8日（土）
【第2期法要】
4月15日（土）～17日（月）
4月18日（火）～20日（木）
4月21日（金）～23日（日）
4月24日（月）～26日（水）
4月27日（木）～29日（土）

讃仰奉仕団（2泊3日）
4月 9日（日）～11日（火）
4月12日（水）～14日（金）

讃仰奉仕団　2泊3日

日程2日目に親鸞聖人ゆかりの御旧跡を訪ね、修学の日々を送られた歩みをたどります。
※参加費（冥加金）に加え「御旧跡参拝参加費」として別途5,000円が必要です

比叡山延暦寺 横川中堂

真宗本廟奉仕 体験奉仕団

1泊2日・「慶讃法要奉仕団」期間中のみ開催

真宗本廟奉仕を体験いただく、1泊2日の奉仕団です。参拝は自由席となります。①教導は担当せず、補導のみが担当します。②基本的に、5名以上の団体のみとします。③結成式・解散式は行いません。

テーマ・対象別の募集

お一人から参加できます！

おみがき奉仕団　3月・7月・11月
法要を迎えるにあたって、阿弥陀堂や御影堂の仏具のおみがきを中心とした奉仕団です。両堂で用いられる仏具の大きさを体感できます。

報恩講奉仕団　11月
親鸞聖人の御命日を縁として勤まる1年でもっとも大切な法要である「報恩講」への参拝を中心とした奉仕団です。境内では各種催しも行われます。

春の法要奉仕団　4月
親鸞聖人の御誕生を縁として勤まる親鸞聖人御誕生会（音楽法要）など、春の法要への参拝を中心とした奉仕団です。
※2023年は実施しません

お煤払い奉仕団　12月
歳末、1年分の埃を竹の棒と大きな団扇で外へ扇ぎだし、新しい年をお迎えする準備を行う「お煤払い」に参加する奉仕団です。

中学生・高校生奉仕団　8月
中学生・高校生対象。全国から集まった同世代の人と寝食を共にしながら、人間関係や自分自身についてあらためて考える奉仕団です。

5人以上で奉仕団を企画できます
いろいろな奉仕団を提案する「真宗本廟奉仕 ご案内カタログチラシ」をもとに、奉仕団を企画してみませんか。チラシの送付をご希望の方は研修部までお問い合わせください。

カタログチラシはコチラ

真宗本廟奉仕のお申し込みについて

●申込方法
研修部に電話いただくか、同朋会館ホームページにある申込フォームからご予約ください。
お申し込み受付後、「真宗本廟奉仕申込書」をお送りしますので、必要事項をご記入の上、上山30日前までに研修部へご提出ください。

●帰敬式を受式される方
礼金10,000円（20歳以下は5,000円）

●同朋会館冥加金（参加費）

期間＼種別	大人（15歳以上）※学生以外	学生 高校生	小中学生	団体園児	未就学児
2泊3日（最大7食付）	18,000円	13,500円	9,000円	5,000円	―
1泊2日（最大4食付）	13,000円	9,500円	6,500円	3,500円	

※上記冥加金の他に、2泊3日の場合は米2kg（1升4合）または米代1,300円、1泊2日の場合は米1.2kg（8合）または米代800円が必要です。
※継続的な本廟奉仕上山を願い、団体補助（5人以上）や旅費補助（一部地域を除く）を実施しています。詳しくはお問い合わせください。

お申込み・お問い合わせ
京都 東本願寺 同朋会館
〒600-8308 京都市下京区七条通新町東入ル新シ町121（東本願寺境内南側）
TEL：075-371-9185　FAX：075-371-9201
メール：dobokaikan@higashihonganji.or.jp
東本願寺 同朋会館　検索

ご入館される皆様に安心してお過ごしいただけるよう「真宗本廟奉仕施設における新型コロナウイルス感染症予防ガイドライン」を策定し、運営しています。

南無阿弥陀仏　人と生まれたことの意味をたずねていこう

聞　今月の法話

「仏法は、聴聞にきわまることなり」（「蓮如上人御一代記聞書」）と教えられているように、真宗門徒は昔から仏法聴聞を大切にしてきました。日々の生活の中で仏さまの教えを聞いていただくことを願いに、毎月一話ずつ掲載します。

第25回　自力をはげむひと

京都教区石東組　浄慶寺　藤浪遊（ふじなみ ゆう）

「私は正しい　争いの根は　ここにある」同朋会館の廊下に掲示されている言葉です（奉仕団で上山されたご門徒が仰ったことを担当の補導さんが書き留められたそうです）。

私たちは皆、自らの正しさ、価値観を握りしめ生きています。

しかし、その握りしめているものが本当に間違いのないものなのか、あてになるものなのかを確かめること（仕組み）がなければ、それは独善にしかならないでしょう。自らを教えに聞いていくことの大切さをあらためて思います。

私は八十三歳になる父（前住職）に辛く当たることがあります。父は目が不自由になってきたこともあり、動きが遅くなってきました。物忘れも多くなってきました。そのような父に「しっかりしてよ」、「何回も（同じことを）言わせないでよ」ときつい口調で私は迫ります。母からは「もう少し優しくできないのか」と言われ、自分でも、頭ではこれが「老い」なのだと解っているつもりが、一緒に生活する中でのイライラや腹立ちから、言葉を止めることができなかったりしています。

そのような中、お寺で法座が勤まり、私と父は本堂の内陣に出仕をし、お勤めをしました。お勤めが終わり、父はゆっくり時間をかけ、少しおぼつかない足取りで退出しました。参詣されたご門徒の方々は心配そうに父を見守っていました。法座が終わった後、側に来られた一人のご門徒さんから「ご院家（住職）さん、親にあんな顔をするもんじゃないで」と言われました。退出時は二人そろって退出しようと、私は立ち上がるのに時間がかかっている父を待っていたのですが、その時の私の顔を見ての言葉でした。本当に恥ずかしくなりました。おそらくとても冷たい顔をしていたのでしょう。「自分のためにしか生きられない」という我執が、自分でも気づかないうちに生活の中に出ていることを言い当てられた瞬間でした。

もともと私たちは、わがままで、身勝手で、自分を優先してしまうものを持っています。でも、そのことを他人から指摘されてもなかなかうなずくことができません。また、うなずけてもすぐに忘れてしまいます。そこには、どこまでも自らを「私は正しい」と信じて疑わない自分がいるのだと思います。

親鸞聖人は、自らの物差しを握りしめ、自らの考えを依り処にして生きていく生き方を『一念多念文意』と、おさえられ、それによって生きる人間を「自力をはげむひと」（同前）と教えてくださっています。

また、親鸞聖人はこの「自力をはげむひと」を「善人」とされ、「悪人」ということを『歎異抄』第三章で

煩悩具足のわれらは、いずれの行にても、生死をはなるることあるべからざるをあわれみたまいて、願をおこしたまう本意、悪人成仏のためなれば、他力をたのみたてまつる悪人、もっとも往生の正因なり。

（『真宗聖典』六二七―六二八頁）

と、他力（弥陀の本願）をたのむ人を「悪人」と、独特の言い回しで表現されています。

「自らの物差しを握りしめ、自らの考えを依り処にして生きている私」や、「わがままで、身勝手で、自分を優先してしまう私」、そういう私の姿を、届けられている教えによって、自身の生活の中で「思い当たる」という形で自覚していく。自力をはげむ「善人」として生きている姿を知らされ続ける。それが教えに聞いていくという歩み（聴聞）なのだと思います。

教えを通して、自分の愚かさ、浅ましさに気づかせてもらい「ごめんなさい」と頭が下がりうなずけた時にはじめて、目の前の人と出会えるのでしょう。私たちは共に生きているといいながら、わが身、わが心、わが力をたのむが故に、お互い出会えないままなのではないでしょうか。なかなか父と出会えていない私がそこにいます。

念仏の教えは、私の深い罪業の身（自分のためにしか生きてこなかった）を照らし、教えてくれます。その教えに「そうでした」とうなずけた時、私たちは親鸞聖人が仰るところの「悪人」となるのでしょう。念仏申す身をいただき、弥陀の本願をたのむ悪人たる共通の大地をたまわることにおいて、本当の意味で他者と共に生きる世界が開かれるのだと思います。

コロナや戦争のある中、私たちは慶讃法要をお迎えします。今、この時を生きている私を、時代社会から問われる私を、念仏の教えにたずね、明らかにする御縁としたいです。

新刊

浄土真宗の精髄「正信偈」に聞く
『親鸞の証明
―「正信偈」のこころ―』
時代や国が変わろうと、どれだけ文明が発展してもなくならない人間の問題、孤独や無気力、漠然とした不安…。
いかなる時代社会にあっても私たちの真の依りどころとなり、生きる力となるものは何なのでしょうか。
真宗門徒にとってもっとも親しまれるおつとめであり、浄土真宗の精髄が凝縮された親鸞聖人の偈「正信偈」を、近現代の真宗教学界を牽引した6名の碩学がリレー形式でひもとく一冊です。
寺川俊昭・大河内了悟・廣瀬杲・一楽典次・宮城顗・両瀬正雄 著　文庫判 408頁／定価：1,320円(税込)
ご注文お問い合わせは　東本願寺出版　TEL:075-371-9189
詳しい書籍情報は 東本願寺出版 検索

東本願寺御用達
日下念珠店
〒600-8174
京都市下京区烏丸通花屋町下ル
電話　(075)351-6325
フリーFAX　0120-89-5255
定休日：日曜日

皆様の平安
平安は三つの信念で精進しています
①優良な商品を吟味し御調製
②価格も出来る限り勉強
③親切と誠意あるサービス
法衣、打敷、幕、会旗、念珠、
稚児貸衣裳
御本山用達
平安法衣店
京都市下京区東本願寺大門前(〒600-8153)
電話　京都(075)351-3681(代)
FAX　(075)351-5563

東本願寺出版ホームページで『同朋新聞』がお読みいただけます　同朋新聞　検索

慶讃（きょうさん）NEWS ニュース

出陳件数過去最大で見どころ満載！
「親鸞聖人生誕八百五十年特別展 親鸞―生涯と名宝―」のご案内

来年3月25日から、京都国立博物館において「親鸞展」が開催されます。

このたびの「親鸞展」は、東本願寺、西本願寺、専修寺の所蔵する国宝をはじめ親鸞聖人ゆかりの品々が集結し、国宝12件、重要文化財約70件以上を含む、過去最大の出陳件数となる予定です。特に、『教行信証』坂東本・西本願寺本・高田本が初めて集結するなど、見所多数です。ぜひお誘いあわせのうえご観覧ください。

なお、前売チケットの取り扱いについては、貸切バスを利用する団体は親鸞展事務局（TEL：075-276-2282）まで、貸切バスを利用しない団体・個人の方は最寄りの教務所までお問合せください。

詳細はこちら

教行信証（坂東本）

本願寺聖人伝絵（康永本）

桜花図

期　間	2023年3月25日（土）～5月21日（日）
会　場	京都国立博物館　平成知新館（京都市東山区茶屋町527）
開館時間	午前9時から午後5時30分まで（入館は閉館の30分前まで）
休館日	月曜日
観覧料	一　般 1,800円（前売料金：1,600円） 大学生 1,200円（前売料金：1,000円） 高校生　700円（前売料金：　500円）
主　催	京都国立博物館・朝日新聞社・ NHK京都放送局・NHKエンタープライズ近畿
特別協力	真宗教団連合

宗派からの出陳品（予定）　▲…国宝　●…重要文化財

（1）親鸞聖人影像（安城御影）…●　（2）本願寺聖人伝絵（康永本）…●
（3）本願寺聖人親鸞伝絵（弘願本）…●　（4）教行信証（坂東本）…▲
（5）一念多念文意…●　（6）二尊大悲本懐　（7）皇太子聖徳奉讃
（8）親鸞聖人消息　（9）桜花図／松・藤花図　（10）安養六種図

全国推進員連絡協議会
宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業
「孫子世代への法義相続奉仕団」を開催

御本尊手渡しの様子

7月28日から30日まで、同朋会館で全国推進員連絡協議会の慶讃事業として「孫子世代への法義相続奉仕団」が開催されました。教導に酒井義一（よしかず）氏（東京教区存明寺住職）を迎え、4歳から86歳までの28人が参加しました（祖父母・親世代21人【推進員】、孫子世代7人）。夜の諸殿拝観や全体座談の時間もあり、世代を超えた交流が生まれました。最終日の「御本尊手渡し式」では、祖父母・親世代から「これからも一緒に教えを聞いていこう」というメッセージとともに孫子世代へと額装御本尊が手渡されました。

参加者からは「孫子世代に色々と教えるつもりが、逆に教えられることもあった」、「新しい友達ができて、三日間があっという間だった」との声が聞かれました。堀江勇夫氏（全推協会長）は「定期的に実施できるよう検討していきたい」と述べました。

酒井教導による紙芝居を用いた法話の様子

ほとけの子リーフレット No.3
『親鸞聖人』（出家）を発行

※リーフレットはA6サイズ（A5二つ折り）

青少幼年センターから『聖徳太子』、『花まつり』に続き、『親鸞聖人』（出家）が発行されました。親鸞聖人の誕生から出家までの歴史や、出家をテーマにしたやさしい文章が掲載されています。『同朋新聞』と同様に、仏事の場や子ども会、同朋の会などでぜひご活用ください。リーフレットは、青少幼年センターまたは最寄りの教務所でお求めいただけます。（無償）

青少幼年センター　TEL：075-354-3440（平日9：00～17：00）

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要
稚児（ちご）を募集します！

慶讃法要の各期最終日（結願（けちがん））での稚児を募集します。諸殿から白洲を経て両堂へ出仕する僧侶の参堂列に加わりませんか。このご縁に、ぜひお申し込みください。

期　日	2023年4月 8日（土）【第1期法要 庭儀】 2023年4月29日（土）【第2期法要 庭儀】
募集人数	各期　稚児90人、役稚児10人 ※募集人数を超えた場合は抽選となる場合があります。
対　象	小学生6年生まで ※役稚児は法具を持つため、保護者の同伴なしでも参列できる方。
冥加金	稚児10,000円、役稚児15,000円
募集締切	2022年12月15日（木）
申し込み	申込書に必要事項をご記入の上、郵送またはFAXで本廟部式務所稚児係までお申し込みください。

※申込書は東本願寺HPの「慶讃法要特設サイト」からダウンロードもしくは各教務所へご連絡ください。日程等の詳細は、後日受付ハガキをお送りします。

稚児申込書はこちらからダウンロードできます

お問い合わせ　真宗大谷派宗務所本廟部式務所 稚児係
〒600-8505　京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地
TEL:075-371-9188　FAX:075-371-9205

慶讃法要ボランティアを募集します！

このたび、“慶讃法要ボランティア”としてご協力いただける方を募集します。真宗本廟で、全国の御同朋とともに慶讃法要をお迎えしませんか。多くの方々の参加をお待ちしております。

募集対象　真宗大谷派の僧侶・門徒・関係学校の学生
応募方法　所定のエントリーシートに必要事項を記入のうえ、右記応募先まで郵送またはFAXにて提出ください。
※エントリーシートは宗派ホームページよりダウンロードできます。
※郵送をご希望の場合は右記「慶讃法要ボランティア募集係」へご連絡ください。
応募締切　２０２３年２月２８日（火）
募集内容　①清掃・接遇業務　②境内催事「憩いのひろば」「子どものひろば」のお手伝い

応募・お問い合わせ　真宗大谷派宗務所総務部　慶讃ボランティア募集係
〒600-8505　京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地
TEL：075-371-9272
FAX：075-371-1214
※詳細は慶讃特設サイトをご参照ください。
慶讃特設サイトはこちらから

阿弥陀堂門の修復工事すすむ

国の重要文化財に指定されている阿弥陀堂門の修復が本年1月から本格的に始まり、全面的な屋根の葺き替えを中心に、錺金物や、木部の補修工事を行っている。

工事用の足場となり風雨から建物を保護する素屋根が建てられた後、棟瓦の積み下ろしから始まり、42年ぶりに檜皮葺きを取り除いた。檜皮めくれの破損は目立っていたものの、全体的におおむね健全な状態であることが確認された。現在は、軒付（軒先）の檜皮葺きが完了し、屋根面の平葺きが行われている。

また、1911（明治44）年の建築以来初めてとなる錺金物の補修工事では、丁寧に錺金物が取り外された後、工房に運ばれ、洗浄、補修、金箔の押し直しが行われており、9月中旬頃から取り付け作業に取りかかっている。また、同じく建築以来初めてとなる木工事では、彫刻や柱などの木部の清掃、桟唐戸（門扉）を取り外しての修理が行われている。阿弥陀堂門修復工事は本年10月末に完了の予定。

修復期間（予定）

阿弥陀堂門　2021年9月～2022年10月末
鐘楼　2023年6月～2024年9月
手水屋形　2024年4月～2025年3月

阿弥陀堂門通り初め式

2022年11月12日（土）

屋根の平葺き

錺金物の修復の様子

木部の補修工事（桟唐戸）

2022年8月の大雨で被害に遭われました寺院・教会、ご門徒はじめ被災者の方々に対し、衷心よりお見舞い申し上げます。　真宗大谷派（東本願寺）

8月上旬からの全国的な大雨による被害について、特に小松教区において9カ寺の寺院から建物への浸水等の被害が報告されています。また、多くのご門徒宅が被害を受けており、宗派としては、教区をまたいでご門徒が分布していることに鑑みて、小松・大聖寺教区に対し、計50万円の見舞金を給付することを決定しました。

その他の地域においては、大きな寺院被害はないものの、特に青森県・秋田県の複数の門徒宅で浸水被害が報告されており、現在、東北教区において情報収集中です。

真夏の早朝に仏法聴聞―大谷祖廟暁天講座 開催―

8月1日から5日、宗祖親鸞聖人の御廟所（墓所）である大谷祖廟で「暁天講座」が開催された。各日、6時半から勤行に引き続き法話が行われ、期間中延べ224人が来聴した。

暁天講座は毎年、夏の暑さを避けた早朝に、親鸞聖人が顕かにされた本願念仏の教えを聴聞する場として開かれている。

3日の講師として迎えた三木彰円氏（大谷大学教授）は、「御同朋・御同行」―「輩」―宗祖のお ことばを通して―の講題のもと、宗祖が「御同朋」という言葉をどう受けとめておられたのかを尋ねた。『歎異抄』やお手紙に記される宗祖の敬いの文法表現をとおして、門弟と対等の立場を宗祖は生きておられたことを踏まえ、「御同朋は、尊ぶべき朋」ということ。それは、共に阿弥陀の本願に願われる朋として出遇うということであり、この言葉から私たちは、本願に出遇うことが願われている」と語った。

来聴者からは、「感染症の影響で外に出ることが憚られる中で、祖廟に身を運び、親鸞さんの教えを聴聞できることが有難い」との声が聞かれた。

なお、各日の法話は、左記にて動画を配信している。

しんらん交流館　大谷祖廟暁天講座　検索

三木彰円氏（8月3日）

新僧侶の誕生―真夏の得度式執行

厳しい暑さとなった8月4日と7日、真宗本廟（東本願寺）にて得度式が行われ、二日合わせて満9歳以上の男女222人が受式した。8月は夏休み期間ということもあり、多くの小中学生の姿が目立つ。綺麗に剃髪した子どもたちの姿は、京都の夏の風物詩となっている。

白装束姿の受式者は、御影堂で大谷暢裕門首から「剃刀の儀」を受け、阿弥陀堂で御本尊に拝礼した後、記念写真撮影に臨んだ。

昨年に続き、新型コロナウイルス感染防止のため、マスクの着用や、間隔を置いての着座などの対策を取るとともに、大谷祖廟参拝と、度牒（真宗大谷派僧侶であることの証書）伝達式を省略しての執行となった。

墨袈裟を着け、仏弟子としての法名を授かった受式者は、緊張し引き締まった表情で僧侶としての一歩を踏み出した。

法名を受け取る受式者（8月4日）

親鸞聖人讃仰講演会のご案内

11月26日から28日の3日間、毎年開催している親鸞聖人讃仰講演会は、大谷ホールでの聴講定員を最大200人とし、感染対策を十分に講じた上で各日18時より開催いたします。詳細は、本紙11月号にてお知らせいたします。

26日（土） 藤田正勝氏（京都大学名誉教授）・小川一乗氏（大谷大学名誉教授・真宗大谷派講師）
27日（日） 金龍 静氏（元本願寺史料研究所副所長）・本多弘之氏（親鸞仏教センター所長・真宗大谷派講師）
28日（月） 藤田ジャクリーン氏・池田勇諦氏（同朋大学名誉教授・真宗大谷派講師）

※講演の様子をインターネットにて同時配信いたします。ただし、28日の藤田ジャクリーン氏の講演は配信いたしません。
※新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、急きょ開催形態が変更となる場合があります。

問い合わせ　教学研究所
〒600-8164 京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199
電話：075-371-8750
詳しい情報はホームページにて公開中！　浄土真宗ドットインフォ　検索

長浜・京都教区が教区改編の合意
2024年7月、新「京都教区」発足へ

長浜教区 教区会の様子

宗門を取り巻く社会環境が激変していく時代にあって、将来にわたってお念仏の教えを手渡していく教化・財政の基盤づくりのため、教区改編の取り組みが進められている。

第2期改編教区である長浜・京都教区において、去る6月27日開催の地方協議会にて教区改編の合意後、7月、8月に開催されたそれぞれの教区会及び教区門徒会にて改編合意事項の議決がなされた。

合意書の内容は、新教区の名称を「京都教区」、改編実施の時期を「2024年7月1日」、教務所の設置場所を現京都教務所とし、現長浜教務所を新教区の教務支所とするなど、全7項目となっている。

長浜・京都教区では、2017年2月に第1回地方協議会を開催してから、全22回の開催を経てこのたびの合意・議決に至った。

今後は2024年7月の新教区発足に向け、具体的な協議が行われていく。

京都教区 教区門徒会の様子

第32回同朋ジュニア大会　—3年ぶりに開催—

回向曲撮影の様子

8月2日から4日、『同朋ジュニア大会』が「“いのち”～いま だから～」をテーマに同朋会館を会場に3年ぶりに開催され、参加者、スタッフ39人が参加した。新型コロナ感染の第7波急拡大により、当初の予定を変更して2泊3日に日程を縮小しての開催となった。参加者は講師の高橋法信氏(大阪教区光徳寺)のお話を聞き、班別座談を行ったり、6つの部屋に開設されたブースを巡り、念珠を作ったり、絵本を読んで班ごとに楽しんだ。2日目の班活動では近隣を散策したり、御影堂門の清掃奉仕を行った後、慶讃法要時の音楽法要で流れる「回向曲(えこうきょく)ー世界の同朋と共に 歌うプロジェクト」に同朋ジュニア大会からも応募。回向曲を全員で練習し、撮影に臨んだ。最終日にはすっかり打ち解けた参加者たちは別れを惜しみながら「来年もまた会おうね」と再会を約束し、閉会した。

講義(高橋法信氏)

しんらん交流館ホームページに「参加する」のページを新設

しんらん交流館ホームページ(浄土真宗ドットインフォ)のトップページに、「参加する」のページを新設。オンラインを活用して開催されるものをはじめ、全国から参加者を募集する取り組みが掲載されるページにワンクリックでアクセスできるようになりました。教区、組、別院などで、全国に広く参加を呼びかけたい研修会がある場合は真宗教化センター企画調整局までお問い合わせください。

お問い合わせ　真宗教化センター 企画調整局
TEL　075-371-6171　メール　kikaku@higashihonganji.or.jp

山陽教区「非核非戦法会 兼 原爆死没者追弔会」
自らの平和観を問う

7月6日、広島別院明信院において、「非核非戦法会兼原爆死没者追弔会」が勤修された。広島別院では毎年、「原爆の日」のひと月前のこの日に非核非戦法会が勤修される。いまだ新型コロナウイルス感染収束の目処が立たない中ではあったが、参拝した方々はそれぞれに原爆死没者に思いを寄せた。

勤行の様子

非核非戦法会では、別院にて勤行の後、宍戸大観(ししどたいかん)氏(安芸南組龍善寺)より「兵戈無用(ひょうがむよう)」という『仏説無量寿経』の言葉を講題として法話があった。宍戸氏は、祖母と伯母を爆心地での被爆により亡くされた自身の体験を語り、「広島では原爆で14万人が亡くなったと言われるが、時を経た今、数字で表現される死では、一人ひとりの命の重みを感じ取れなくなっている」と問題提起された。また、今年2月より続いているロシアのウクライナへの侵攻により、日々人の命が奪われ、一人ひとりの命の輝きが見失われている現状にふれ、「すべての者に輝きを見出していく仏や菩薩が今、私たちのあり方を厳しく問うているのではないだろうか」と投げかけた。

原爆投下から77年が経ち、平和ということが大きく揺らぎ、核の脅威に対する危機感が広がっている今、あらためて非戦平和の願いを共にする機縁となった。

また、人類史上初めて人間の住む街に原子爆弾が投下された8月6日には、平和記念公園内にある原爆供養塔前での勤行があった。毎年この日には供養塔前で仏教各派による勤行が勤まっており、宗派からは広島市内の住職等が参加。原爆の惨禍に思いを寄せながら「正信偈」が勤められた。

法話(宍戸大観氏)

九州教区「非核非戦法要ー共に生きよー」
次代へと継承される平和への願い

8月9日、長崎組長崎教会を会場に、「非核非戦法要」が勤修された。石碑の前での勤行の後、本堂にて講師の話をお聞きした。今回は、平野伸人(ひらののぶと)氏(高校生平和大使派遣委員会共同代表)と、現役の高校生平和大使及び平和大使経験者を迎えた。

本堂での勤行

高校生平和大使とは、1998年に長崎市で始まった高校生による平和運動で、核兵器廃絶と平和な世界の実現を求め、ヒロシマ・ナガサキの声を世界に届けることを目的に「高校生1万人署名活動」などを行っている。その生みの親であり、活動を支えてきた被爆2世である平野氏は、平和大使が今年で25周年を迎えるにあたり「今までさまざまなことがあった。思いをつないでいくことは難しいが、大切なことだ」と振り返り、「真宗大谷派の皆さんが毎月9日に長崎教会で法要を勤め、非核非戦の思いをつないでいただくことは尊敬に値する」と述べられた。また現役の高校生平和大使からは、それぞれの活動への思いと様子が語られた。

続いて平野氏と平和大使経験者によるシンポジウムが行われ、一人ひとりの平和への思いや、体験談の継承への意気込みを語り合った。質疑応答では、被爆体験の語り部である森田博満(もりたひろみつ)氏が「あと10年程で被爆者は居なくなるでしょう。みなさんの体験談の継承へのはつらつとした意見を聞いて安心しました。どうぞ続けてください」と感動の思いが述べられ、会場には和やかな空気が漂っていた。今回は例年より若い世代の参加が多く、未来へ向けて平和への思いを確かに継承していかなければならないと感じた法要であった。

シンポジウムの様子

(九州教区通信員　奥村誓至)

入館状況については、研修部までお電話でお問い合わせください。

2022年 真宗本廟奉仕のご案内

真宗本廟奉仕を機に、ぜひ帰敬式を受式ください。

◆真宗本廟 報恩講奉仕団

2泊	1泊
11月20日(日)～22日(火)	11月20日(日)～21日(月)
11月24日(木)～26日(土)	11月24日(木)～25日(金)
11月27日(日)～29日(火)	11月27日(日)～28日(月)

真宗本廟報恩講の法要参拝を日程の中心とした奉仕団です。

◆真宗本廟 お煤払い奉仕団

2泊	1泊
12月19日(月)～12月21日(水)	12月19日(月)～12月20日(火)

歳末、両堂の1年分の埃を竹の棒と大きな団扇を使って外へ扇ぎだし、新しい年をお迎えする準備を行う「お煤払い」に参加する奉仕団です。

参加費　〈2泊3日〉18,000円、米2kg（1升4合）または米代1,300円
〈1泊2日〉13,000円、米1.2kg（8合）または米代800円
※上記は大人（15歳以上）の場合です。

申込締切　入館の40日前まで。

【お問い合わせ】同朋会館・研修部　TEL:075-371-9185
・受け入れ状況などの情報は、同朋会館ホームページでご覧いただけます。
・ご入館される皆様に安心してお過ごしいただけるよう、新型コロナウイルス感染症予防対策を実施し運営しています。
・具体的な対策については、同朋会館ホームページよりご確認いただけます。

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要奉仕団、讃仰奉仕団、真宗本廟奉仕体験奉仕団の参加を募集しています。詳しくは同朋会館HPをご覧ください。

真宗本廟奉仕参加者の声をご紹介

奉仕団はあらためて自分を見なおす機会になりました。（70代・女性）

ご案内

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、休館日・開館時間及び掲載内容について、中止・延期もしくは日程等を変更する場合がありますのでご了承ください。

しんらん交流館　京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199番地

真宗本廟（東本願寺）へご参拝の際には、ぜひ真宗教化センター しんらん交流館にお立ち寄りください。
開館時間／平日 9時～18時　土日祝 9時～17時　休館日／毎週火曜日

◇10月の定例法話【場所】1階 すみれの間
【時間】毎日14時～　12・27日 10時～
※毎週火曜日、その他都合により休会する場合があります。

◇10月の東本願寺日曜講演
【場所】2階 大谷ホール【時間】9時30分～11時
【講師】◆2日…真城義麿（四国教区善照寺住職）◆9・16日…休会◆23日…津垣慶哉（九州教区正應寺住職）◆30日…難波教行（教学研究所研究員）

◇交流ギャラリー（1階）【時間】開館時間に同じ
「柳宗悦がであった土徳～人と自然がはぐくんだ越中富山の美～」展
【期間】開催中～2022年12月15日（木）

◇しんらん交流館 Tera School【場所】1階 すみれの間
【日時】毎週月・金曜日 18時30分～20時30分
【対象】小学3年生～高校3年生　※幼児教室もあります。　http://www.teraschool.jp

東本願寺いのちとこころの相談室　【TEL】075-371-9280

【開室時間】毎週木曜日 13時～17時（祝日または休館日、その他行事日は閉室）

全国のお寺での取り組みや読みもののページなど、さまざまな情報を発信しています。
浄土真宗ドットインフォ　検索

真宗本廟（東本願寺境内）　京都市下京区烏丸通七条上る

◇晨朝（おあさじ）【場所】阿弥陀堂及び御影堂　【時間】毎日7時～
◇晨朝法話　【場所】御影堂　【時間】毎日7時30分頃～
◇真宗本廟法話　【場所】御影堂または大寝殿
【時間】通常10時10分～／13時10分～
逮夜日（12・27日）13時10分～　御命日（28日）9時30分～
※その他、時間・会場を変更する場合があります。
◇参拝接待所ギャラリー　【時間】9時～16時
「親鸞聖人のご生涯」（常設展）開催中
「洛中の静寂 渉成園～保存修理事業と生物多様性～」開催中～10月27日

詳しくは、真宗大谷派ホームページまで　東本願寺　検索

編集室だより

◇「なぁなぁ、ゲームめっちゃ上手やったよ。また会おな」。教区の青少年教化事業にスタッフとして参加し、子どもたちをお見送りしている時に一人の女の子が私の所へ駆け寄り、耳元でささやいてくれました。1日のうちのほんの一コマを覚えてくれていた思いもよらない言葉に、驚きとうれしさで胸がいっぱいになりました。そして、他者に受けとめてもらえたことのよろこびを教えてもらいました。子どもは大人のことをちゃんと見ている。他者にまなざしを向けることや、自分の言葉で思いを表現することを忘れている私の姿も見えました。◇3年ぶりに開催された同朋ジュニア大会（11面）。前日に初めて出あったと思えないほど子どもと大人の歌声がひとつになった回向曲の響きが、今も心に残っています。「いま、ここ」を大切に、子どもも大人もお互いを認めあって過ごす時と場がこれからも続いていくことを願います。（髙月）

今月号の『同朋新聞』を読んで、プレゼント付クロスワードパズルを完成させよう！

「タテのカギ」「ヨコのカギ」それぞれの設問に答え、クロスワードパズルを完成させましょう！
10月号の『同朋新聞』を読むと、ほとんどの答えがわかります！！

タテのカギ

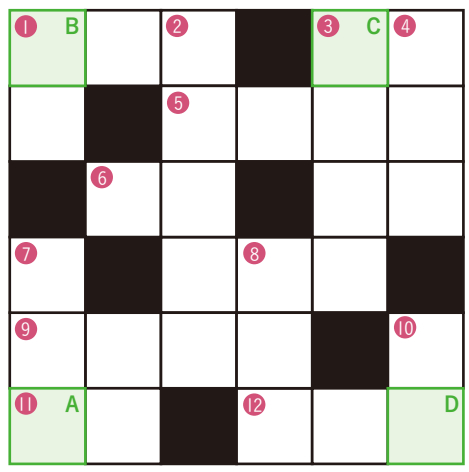
1. しんらん交流館ホームページ（浄土真宗ドットインフォ）のトップページに、「参加〇〇」のページが新設されました。（11面）
2. 東本願寺の飛地境内地である「大〇〇〇〇〇う」は、親鸞聖人の御廟所（墓所）です。
3. 同朋会館は、全国から集う方々が寝食を共にし、親鸞聖人の教えを聞き、真宗門徒の生活を習う「〇〇〇〇」の道場です。（6・7面）
4. 『親鸞聖人にであう』は、今回で「第さ〇〇〇」を迎えます。（5面）
7. 8月1日から5日、大谷祖廟で「暁〇〇〇う座」が開催されました。（10面）
8. 2024年7月、新「京都さ〇〇〇」が発足します。（11面）
10. 真宗本廟「お〇〇払い奉仕団」を募集しています。（12面）

ヨコのカギ

1. 「人間といういのちの〇〇〇」今月は、宮下晴輝さんのインタビューです。（2・3面）
3. 「阿弥陀堂〇〇」修復工事は本年10月末に完了の予定です。（10面）
5. 今月の特集は、「真宗本廟奉仕〇〇〇〇しませんか？」です。（6・7面）
6. 『現在を生きる』今月は、沖縄準開教区の「仲お〇〇こ学」さんを紹介しています。（4面）
9. 8月4日と7日、「真宗ほ〇〇〇〇」にて得度式が行われ、222人が受式しました。（10面）
11. 『聞一「〇〇月」の法話一』今月の筆者は、京都教区の藤浪遊さんです。（8面）
12. 「〇〇〇ワードパズル」に、たくさんのご応募お待ちしております。（12面）

※答えはすべて「ひらがな」でお答えください。

答え　A　B　C　D



8月号のクロスワードパズルの答えは、あ（A）さ（B）が（C）お（D）

読者のこえ（7月号を読んで）
◆「はじめて読む正信偈」綴じて読み返しています。一句一句に込められた願いを感じながら、毎日大きな声でお勤めをします。（80代女性）
◆「兵戈無用」この言葉こそ、今大事なこととあらためて感じ取っています。（70代男性）

チャレンジ！　正解者の中から抽選で5名様に「東本願寺出版オリジナル図書カード1000円分」をプレゼントします！

郵便はがきまたはメールにて、❶「クロスワードパズルの答え」❷「郵便番号」・「住所」・「氏名」・「年齢」・「電話番号」と❸『同朋新聞』の感想や紙面に関する要望を添えて、下記までご応募ください。今月号の締め切りは10月31日（月）（当日消印有効）です。

メールでも応募できます!!　はがきと同様に必ず上記❶❷❸を記入し、「件名」に「同朋新聞10月号クロスワード応募」と入力のうえ higashihonganjishuppan@gmail.comへお送りください。

応募はコチラ

［ご注意］◆当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。◆個人情報はプレゼントの発送および紙面づくりの参考に使用し、それ以外の目的には使用しません。◆感想は「読者のお便り」に掲載する場合があります。
◆本クロスワードパズルは、独自のルールに基づいて作成しております。

宛先 〒600-8505　京都市下京区烏丸通七条上る 東本願寺出版「クロスワードパズル係」まで

真宗大谷派（東本願寺）ホームページ　東本願寺　検索

写真：German Brown／PIXTA